



卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、本日まで立派にお子様を育ててこられた保護者の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。皆さんはこの大谷学園で過ごした中で色々な経験をしてきた事と思います。何といっても高等部の二年間はコロナ過により行事の取り止め、リモートによる在宅学習、部活動の制限など、まさにコロナとは人々を遠ざける存在でありました。そして未だ新しい変異株の発生など気の抜けない状況ですが皆さんは四月からそれぞれの新しい生活の場に身を置く事となります。道内にとどまる人、道外へと旅立つ人どちらにせよ期待と不安でいっぱいのある事だと思います。在学中は「四つの道しるべ」に沿った生活をしていったと思います。卒業後も大谷で学んだことを活かしてください。そんな皆さんに私の尊敬する先生の言葉を送ります。「如来の撰取不捨（えらばずさらわすみず）の心」を学び、真実、自分自身のしたいこと、しなければならぬこと、できることを、他人とくらべず、あせらず、あきらめず、していこう。前大谷専修学院院长、竹中智秀師から言われた言葉です。私たちはつい人と自分を比べ、劣っていると思えば焦り、出口が見えないとあきらめたりしてしまいます。それでも自分のしたこと、しなければならぬこと、今できることを明確にし、皆さんが新天地でのびのびと生活することを願っております。

南無阿弥陀仏

合掌



「卒業おめでとうございます」

PTA会長 岡田 稔也



卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんはコロナ禍という未曾有の事態を乗り越えてきた歴史に残る卒業生であると言えます。これまでとは全く違った日常を受け入れつつ一人一人がその時々における課題に精一杯向き合い、努力を積み重ねてきたことと思います。また、最上級生での様々な課外活動などにおける素晴らしい実績や栄誉の数々は大変立派なものです。思うような成果を得られなかった人もいらっしゃると思いますが、みなさんが現状の中で今できることに全力を傾け続けてきたことに敬意を表します。

この大谷での三年間・六年間でなければ得られなかったことや味わえなかったこともたくさんあったことでしょう。困難から逃げずに立ち向かうこと、様々な変化に対応できる力をつけること、かけがえのない仲間がいることの大切さなどを実感したことと思います。

世界ではいつの時代においても様々な問題が起きています。日本においても社会は急速に変化を遂げていくことでしょう。自分自身方において、大きな視野に立って自分がどのよう生きたいのかを問い続けるのか、人としてのあり方がある。様々な状況の中でどのように行動するのか、かとしてのあり方が常に問われ続けることを肝に銘じて進んでいって下さい。

みなさんは四月からはそれぞれが新しい環境での生活がスタートします。この札幌大谷中学校・高等学校で過ごしてきた経験や学んだことを生かし、さらなる活躍と成長を続けてくれることを願っています。



「卒業に寄せて」

札幌大谷中学校・高等学校 校長 梅津 義信

- 四つの道しるべ
- 学び知ることに楽しみを味わおう
  - すなおな心で真実を求めよう
  - 身体をすこやかに鍛えよう
  - 限りなき恵みに感謝しよう

発行／札幌大谷中学校・札幌大谷高等学校 保護者と教職員の会

編集／広報部 印刷／(株) 辻孔版社



「私の六年間」

六年一組 西山 海風

私の六年間はバレーボール中心の毎日でした。中学では、人への心遣いの大切さと、勝つことの喜びを学びました。高校では、人との繋がりが大切だということと、勝てないことの辛さを学びました。私は高校に入学する時に、大学ではバレーを続けず、ここで最後だということを決めました。その時すっかり決断していたからこそ、最後の最後まで諦めずにバレーを続けることが出来ました。私はバレーが嫌いで辞めるわけではありませぬ。六年間でバレーをしている時間が一番楽しかったです。

「高校三年間を振り返って」

六年二組 信田 裕樹

私は六年間この大谷で過ごしてきました。今までにない多くの友達に恵まれ、笑いの絶えない日々を生活することができ、周りの友達に感謝しています。私はほとんどサッカーしかない毎日を過ごしていました。が、教室ではクラスメイトだけでなく色々な人が集まり沢山の思い出を作ることが出来ました。コロナ禍により思うようにやりたいことが出来なかつた三年間でしたが、最高の友達に出逢えたことで忘れられない三年間を過ごせたと思います。

「高校生活を振り返って」

六年三組 堀田 凜和

高校生活三年間は、自分が想像しているような高校生活ではありませんでした。

高校一年生の冬から、高校三年生の春にかけてコロナウィルスの影響により、外出自粛や短縮授業など行動に制限がかかりました。そのため修学旅行、学園祭、体育祭などの学校行事が全て中止になり、二年間行事のない学校生活を送りました。

しかし制限がかかった分、この与えられた時間により部活動や趣味に没頭することが出来たので、充実した毎日を過ごせたと思います。

「高校生活を振り返って」

六年四組 上村 朋生

僕たちの高校生活のほとんどが新型コロナウイルスの影響を受けました。修学旅行や体育祭など、学校行事は次々になくなり、学校行事の思い出は四年生の頃だけとなってしまいました。また、コロナの影響により、授業がオンラインになり、学校に登校することも少なくなりました。コロナ禍で、失ったものは多かつたけ

れども、この状況だったからこそ学べることや、成長できたことがたくさんありました。札幌大谷でやり残したことはたくさんありますが、次のステージに向かって、少しずつ大人になり、少しずつレベルアップしていきたいと思います。

「大谷で過ごした三年間」

六年五組 松井 咲樹

高校生活は長くて短い三年間ででした。最初は友達ができるの不安でしたが、宿泊学習や学園祭・体育祭などの行事を通じて周りの人達と仲良くなり楽しむことが出来ました。一年生の冬頃からコロナ禍になったので研修旅行などの行事がなくなりましたが、周りの人達のおかげで行事がなくても普段の生活を楽しむことが出来ました。三年生になり、受験時期は面接練習で夜遅くまで残る人、休み時間に共通テストの勉強を頑張る人が多かつたため、自分も大学に向けて頑張ろうという励みになりました。大谷で学んだことは大谷でも生かしていきたいです。三年間ありがとうございました。

### 「まだじいかじい。」

六年六組 藤田 倫太郎

私達 S コースは二クラスしかなく合同授業も多かったため、三年間あまりクラスの垣根もなく二クラスで一つのクラスのような印象でした。一年次には全ての行事を完遂し、充実した日々を過ごすことができましたが、二年次からはコロナ禍に入りオンライン授業や行動の制限が増え、苦しい時期が長く続きました。しかし、そんな中でも無事卒業・受験に向けて過ごせている今があるのは両親や先生方が支えてくれたからこそだと思います。これからは皆バラバラの道に進むことになりそうです。進んだ先でも苦しいことや辛いことが多くあると思います。が、成長し、また皆で会える日を信じて進み続けたいと思います。



### 「感謝を込めて」

六年七組 村松 萌乃

私は音楽科に六年間在籍していました。高い目標に向かって努力をする仲間と共に過ごし、支え合い、時にライバルとして切磋琢磨してきました。コロナ禍のため不自由も多くなりました。コロナ禍のため不自由も多くなりましたが、与えられた条件の中で精一杯やれることを頑張ろうと前向きに過ごしてきました。だからこそ笑顔の絶えない日々を送ることができたと思います。中でも、今年度は音楽科の定期演奏会が無事に開かれ、最高の舞台にすることができたのはとても嬉しいことでした。これは、日々ご指導下さった先生方や家族の支えがあつてこそだと、とても感謝しています。これからどんな困難にぶつかっても乗り越える努力をし続けることや、感謝の気持ちをお忘れなことを大切にして精進しようと思います。

### 「美術科での三年間」

六年八組 長屋 美緒

美術を学びたいという思いから入学した三年前が、とても懐かしいです。

す。こんなにも締切に追われる日々が辛いとは思っていませんでしたが、みんな放課後に残って必死になりながら制作することが少し好きな時間でもありました。私を成長させてくれた先生方、離れた場所から応援し支えてくれた家族にはとても感謝しています。

美術科で過ごした三年間は少し特殊で、大変で、それでも楽しかったです。

新しい環境でも頑張っていきたいと思います！今までありがとうございました。

### 「卒業する皆へ」

六年九組 山田 裕梨

三年間はとても短く感じました。私にとって大事な三年間でした。そう思わせてくれた同級生や環境に感謝しています。

各々の人間関係や環境は今後変化し続けていきます。振り返ってみて、後悔やもつとやりたかったことはいくつかあります。しかし、変化することが寂しいと思える今までであったことが嬉しいのです。良い思い出もそうでない思い出も、時には元気づけてくれたり、乗り越えたことが糧になってくれたりすることもあるはず。

すです。あまり関わりがなかった人も仲の良い友達も、それぞれの関わる世界が楽しいものであることを願います。

### 「学機」

六年十組 近藤 桃加

大谷での高校生活は自分にとって初めてのことで溢れていました。往復約三時間かかる通学、コロナウイルスの影響で始まったオンライン授業など、なかなか慣れないことはかりで大変でした。ですが、効率的な時間の使い方を考えることで時間に対する意識が日常的に高まりました。また電子機器に触れることが多くなったことにより、以前は使いこなせなかったアプリなどが使いこなせるようになり、大学生になってからも役立つ知識を身につけることができました。これらのことから大谷で何事もプラスに考えることの大切さを学びました。

これからも学びと謙虚に向き合い、成長していきます。





### ◆高校女子バレーボール部

#### 「夢の舞台」

六年一組 山田 帆夏

新型コロナウイルスの影響で無観客試合でしたが、全国大会という夢の舞台で試合をすることが出来て、本当に良かったです。結果は初戦敗退という結果で終わってしまいました。指導者の方々や六年間一緒にやってきた仲間とバレーボールが大好きでした。四・五年生には全国大会でも負けないチームを作って欲しいです。十二年間バレーボールを続けられたのは、家族や指導者、仲間の支えがあったので辛いことも乗り越えられました。沢山の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。応援ありがとうございました。



### ◆高校フェンシング部

#### 「全国大会」

#### 出場ついで

五年四組 前田 晃希

僕は一月に初めて全国大会に出場しました。その大会に向けて練習する中でわざわざ学校に来て教えてくださった方もいて、一日一日充実した練習が出来ました。しかし、大会の結果は予選を通過したもののトーナメント一回戦で負けてしまいました。この結果を活かして次の大会まで自分の改善するべきところを直していこうと思います。今回の大会は、コロナ禍というのもあり出場出来るのか不安もありましたが、家族や顧問の先生など周りの人からの助けもあり、出場させてもらうことが出来ました。これからも感謝の気持ちで忘れず、次の大会に向けて練習していきます。



### ◆中学フェンシング部

#### 「全国大会」

#### 出場ついで

三年四組 吉野光一郎

僕は、一月に東京で行われた第29回JOCジュニア・オリンピックカップに出場しました。結果は二回戦で敗退し、32位でした。新型コロナウイルスの影響で全国大会が中止になってしまい、気がつけば中学生最後の全国大会でした。あまり納得のいく結果ではありませんでしたが、新型コロナウイルスが少しだけ落ち着き、大会に出場できたことがうれしかったです。

来年から高校生になり、さらにレベルの高い大会に出場できます。ベスト8に入賞するのが目標です。そのため、集中して毎日の練習に励みます。



### ◆高校卓球部

#### 「北海道から

#### 金メダルを目指して

四年四組 岡 るる

卓球部は高校生十一名、中学生六名の計十七名で活動しています。

一月に東京で行われた全日本卓球選手権大会に五名が出場しました。私は高校二年生以下が出場できるジュニアの部で、今大会三位になった香ヶ丘リベルテ高校の由本選手と三回戦で対戦しました。接戦の末、2対3で負けましたが、手応えを感じることができました。

三月に全国高校選抜大会があり、学校対抗戦に出場します。今大会の経験を生かして、私たちのスローガンである「北海道から金メダル」を目指して、頑張りたいと思います。



吹奏楽局

「周りの感謝  
あいつに」

五年八組 日尾 文香

昨年はコロナウィルスの影響で中止となつてしまった吹奏楽コンクールが今年には開催されたことを嬉しく思います。昨年の中止を受けても私たちはモチベーションを下げることなく目標に向かって練習に励みました。

東日本大会では一番の目標であった金賞には及びませんでした。練習の過程で一人一人音楽をすることの楽しさ、活動できることのありがたさに改めて気づくことができました。

開催の選択をしてくださった運営の方々、練習場所を提供してくださった学校、私たちが熱心に指導してくださった顧問の先生方に感謝申し上げます。



美術部

「初めこの  
高文連を終えて」

四年八組 中本 成

自分達にとっては初めての高文連出展でしたが、初めてだからと気を抜かず制作に取り組みました。作品のモチーフを狼でいこうと決めた時点で、自分の中の狼のイメージである哀愁や強さを表現したく素材や形を考えるのに時間を費やしました。造形は自立が重要であることも学び、表現したい狼の形は妥協せず自立させるところがとても難しかったです。そんな自分の作品が全国推薦という評価をいただき、嬉しさと同時に戸惑いもありましたが、この貴重な経験をいかし、今後も見聞を広め良いアイデアをうみ出していきたいと思っています。



「日常の中の  
当たり前を見つめる」

六年九組 鈴木仁衣奈

この作品は、夢に落ちる瞬間を覚えてないなという不思議と、どうやって夢の中に入るんだろうという疑問から、羊が連れていってくれるんだ！という私の答えを元に描きました。私はよく、当たり前と化した日常の不思議や疑問、そこからの想像、答えを作品の題材にしています。惑星たちを常に戻っている。惑星たちはダンスをしているのかな。とか、そういうありふれた日常、当たり前の事実。それらの角度を変えて見ると、世界が面白くなります。みなさんも日常に不思議と疑問、想像と答えを見つけてみてはどうでしょうか。





# 四年生 宿泊研修

## 「宿泊研修に参加して」

四年五組 小野 晴香

私たち四年生は昨年十月、サホロリゾートでの宿泊研修に行っていました。例年とは時期も場所も異なりましたが、その分十勝の自然を体感し、四月に行われた場合よりも自分の素を出してクラスの仲間と活動できた機会になったと思います。

様々な体験を楽しみながら他クラスとも積極的に交流できたことはもちろん、それぞれがマナーを守りながら宿泊できました。施設の人、食事、先生方への感謝を言葉にし、最後は自分たちの部屋を掃除することで気持ち良く過ごせたと思います。



今回のような行事をこれからも行えるように、感染症対策、勉強など皆で協力して生活していきたいです。

# 五年生 G・A・S・P・S 音楽・英数選抜コース 研修旅行

## 「人生で二度きりの体験」

五年三組 瀬戸旺志郎

二〇二二年十一月の初めに私達五年生は三泊四日の研修旅行に行きました。その中で私は総務の代表を務めました。行き先は広島・岡山・香川で、様々なものを観ました。幼い頃に一度行つた所も、成長して感性が変わり、見る目を養つた今の自分が観ると感じる事や考える事が違いました。仲間との交流も深まり、高校生だからこそ体験を沢山することができました。



コロナ禍が続いている大変だった時期に、私達のために動いてくれた先生方がいました。

や業者さんにはとても感謝しています。貴重な体験をありがとうございました。



# 五年生 美術科 研修旅行

## 「郷土愛」

五年十組 樋渡 華菜

私たちは、金沢・岐阜・愛知に行ってきました。友達と過ごし沢山の美術作品を見ることが、観光地を巡ることができてとても楽しい研修旅行でした。この中で私は、郷土愛について考えさせられました。各地域の

観光地でガイドをしていたいた沢山の友達と出会い、自分たちの住む場所を愛し、語り継ぎ守る大切さ心打たれました。私たちが住む場所を当たり前のよう考えるのではなく、郷土愛を忘れず、もし私がこの北海道を他の人に紹介する機会があれば、作品で北海道を語れるようになりたいと思える研修でした。





### 「充実した三年間」

三年一組 飯田 遥香

私はこの三年間、とても充実した日々を過ごすことができました。学校生活での思い出は今年の文化祭です。コロナウィルスの影響で学校行事がなくなり、久しぶりに行われた文化祭だったので、とても楽しかったです。部活での思い出は中体連で全国ベスト8になったことです。苦しいことも一緒に乗り越えてきたメンバーと共に掴んだ結果だったので、とても嬉しかったです。思い返してみると、この三年間はとても短かったように感じます。高校でも充実した生活を送れるように今から準備していきたいと思います。



### 「本気になれた三年間」

三年二組 石井 美空

私は、この三年間をバレーボールに費やしました。毎日の厳しい練習にくじけそうになってしまったり、自分は本当にここにおいて役に立っているのかと自信を無くしてしまったりしたことがあります。ですが、周りにいてくれる仲間が支えてくれたおかげで、本当に自分はバレーボールが大好きなんだと思うことができました。ここまでバレーボールを楽しめているのは周りの人のおかげでもあります。特に先生方が本気でご指導してくださったおかげだと思うので、これからも感謝の気持ちを忘れずに生活していきます。



### 「三年間を振り返って」

三年三組 高橋 咲瑛

この三年間、私はたくさんのご経験を学びました。つらいことや悲しかったことより楽しいことやうれしいことの方が多くとてもいい思い出になりました。入学した時は都会自体に慣れていなくて、クラスに人がたくさんいてびっくりしました。同じ学年の人の全員の名前を覚えるのに半年くらいかかりました。色々なことがあったのに、もう三年生で卒業となるとこの三年間はすごく早く感じます。高校では新しい仲間達と楽しい思い出を作りながら夢に向かってがんばります。たくさん支えてくれて教えてくれた多くの方々、三年間ありがとうございました。



### 「中学校生活で得たもの」

三年四組 林川 美月

緊張の中迎えた入学式から、早いもので三年が過ぎました。この三年間は私にとって、成長を実感できるとても充実した日々でした。コロナ禍の中、休校や行事の中止が繰り返され、思うような学校生活が送れず戸惑い、不安な気持ちになることもありましたが、そんな時、励まし合える友の存在が大きな支えになりました。友人に恵まれ、先生方やたくさんの人に支えられて、今私はここにいます。

この三年間で得たものを大事に生かし、高校でも高い目標を持って頑張りたいと思います。





### 中学校 宿泊研修

#### 「宿泊研修で感じたこと」

一年四組 清水 さとわ

宿泊研修で感じたことは次の二つです。

まず、一つ目は仲間との交流の大切さです。今まであまり交流を持たなかった人達と様々な体験をすること、これまで気づかなかった個性に気づくことができました。

二つ目は、集団行動におけるリーダーシップの大切さです。私は総代として、みんなをまとめる必要があります、円滑に集団行動ができるよう声かけを意識しました。そうすることで、みんなの意識をひとつにできたように感じました。

宿泊研修で作れた経験や思い出を今後に生かしていきたいです。



### 中学校 文化祭

#### 「小さな挑戦」

一年五組 石黒 馨

僕は中谷中学校に入って初めて文化祭に参加しました。コロナ感染拡大で中止、延期の心配があったけれど無事に開かれたので良かったです。

一年生は宿泊研修で行った三笠市の地層、化石やパラリンピックスポーツについて発表しました。自分がステージ発表する時に中学生全員が聞いているので緊張して胸がドキドキしましたが、発表が終わると拍手が上がるとても安心しました。

今回の文化祭で大勢の人の前で何かをするという結果がもたれているのだから、これからの学校生活に生かしたいです。



#### 「文化祭で捨てたもの」 そして得たもの」

二年一組 山崎 咲

私は文化祭で恥を捨てました。そして自信を得ました。私は今まで目

立つことはあまり好きではありませんでした。ですが、今回の文化祭で私は自分のクラスが一番輝いて、そして目立ってほしいと思います。

た。周りでは全身緑色の人や顔を黄色に塗っている人もいました。そんな中、私はチャイナドレスを着て司会進行に臨みました。本番の時は着替えた瞬間から恥ずかしくて自分でも何をしているのだろうと思っ

た時もありましたが、周りからの評判は思ったよりもよくて自分に自信が付きました。私は文化祭がとても楽しかったです。恥を捨てるのも悪くないです。



#### 「コロナ禍での文化祭」

三年四組 辻 亮佑

今年の文化祭は二年ぶりの文化祭となりました。昨年は新型コロナウイルスの影響により開催することが出来なかった文化祭ですが、今年にはオンラインという新たな取り組みで開催することが出来ました。一・二年生にとっては初めての文化祭ということもあり流れがわから

ない中、前日のリハーサルをいかに立派な発表をすることが出来たと思います。そして、三年生にとっ

ては最後の文化祭でした。新型コロナウイルスにより極力話すことを控えるなど色々な条件がある中、ダンスをするなどの工夫をして、最高の文化祭にできました。



#### 編集後記

コロナの影響を受け、今年度も広報部としての活動はできない一年でした。先生方をはじめたくさんの方々のご協力のもとPTAだよりを発行することができましたことを嬉しく思い、感謝しております。

コロナ禍の中でも、前向きに何事にも一生懸命に取り組む大谷生に大きな感動を覚えました。一日も早く校舎に響き渡る元気な声が戻ってくることを皆様の健康を心より願っております。

PTA広報部 部長 池田 香